

信州打刃物工業協同組合

組合の概要

名称 信州打刃物工業協同組合
 所在地 長野県上水内郡信濃町大字古間930-1
 電話番号(FAX兼用) 026-255-6391
 設立 昭和56年11月24日
 出資金 3,622千円
 組合の役員 理事 4名 監事 2名

組合の沿革

昭和26年 古間村鎌工業組合から始まる
 31年 古間村と柏原村が合併し信濃町となり
 信濃町鎌工同業組合が発足
 32年 舟岳鎌協同組合を設立
 56年11月24日 名義変更 信州打刃物工業協同組合
 57年 3月 通商産業大臣指定 伝統的工芸品に指定される
 58年 3月 「活路開拓事業報告書」の発行
 58年10月 「かじやさん体験ツアー」始める
 63年 7月 匠の里モデル工房竣工
 学校の社会学習「体験」を始める
 平成 5年 9月 信州博覧会に参加出店する
 6年 3月 「平成の匠たち」の発行
 7年11月 長野県中小企業団体中央会で表彰される
 10年 2月 長野冬季オリンピックに展示参加する
 3月 長野冬季パラリンピックに展示参加する
 19年 1月19日 特許庁より信州鎌の登録商標を認可される

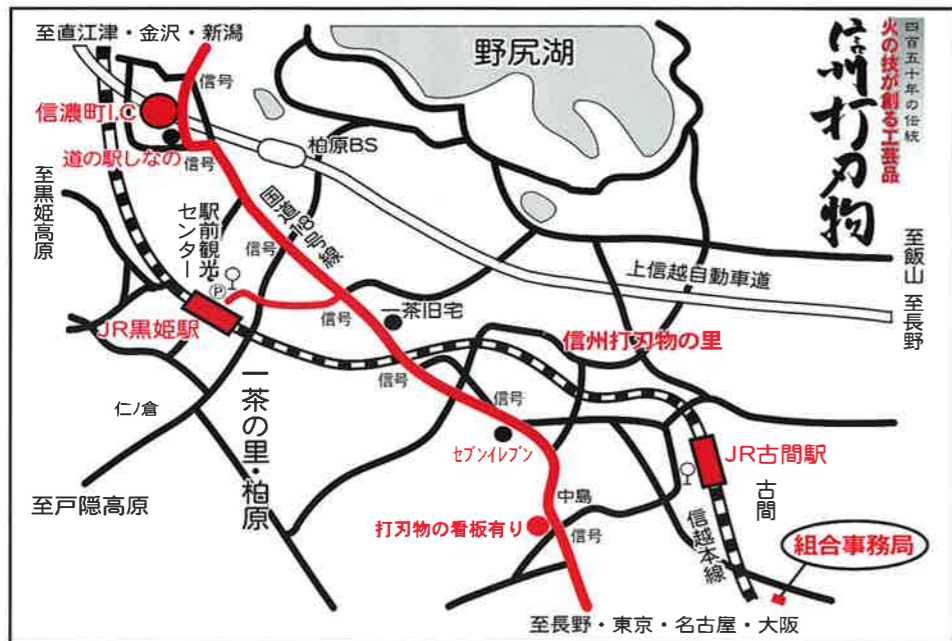
事業内容

- ◎ 伝統的工芸産業の振興
- ◎ 生産品の検査および保管
- ◎ 組合員の地位向上のための団体協約の締結
- ◎ 組合員の事業に関する経営、および技術の改善・向上、又は、組合事業に関する知識の普及をはかるための教育および情報の提供
- ◎ 福利厚生に関する事業

登録商標

信州鎌

登録番号
5025535



お問い合わせは

信州打刃物工業協同組合事務局
 〒389-1313長野県上水内郡信濃町大字富濃143-イ
 TEL (026)255-6391 (FAX兼用)

四百五十年の伝統

信州打刃物

火の技が創る工芸品



通商産業大臣指定
伝統的工芸品



信州打刃物工業協同組合

すばらしい切れ味の信州打刃物

はじめに

信州鎌発祥の地、信濃町は長野県の北端に位置し、信越五岳の妙高、黒姫、戸隠、飯綱、斑尾山に囲まれた上信越高原国立公園の風光明媚な高原の町です。

町の南北を貫く国道18号線とJR信越線は、経済の発展、文化の交流にまた、現在の第3次産業の発展に大きな役割をはたしてきました。そして信越五岳、野尻湖、黒姫高原など美しい自然景観は、高速道開通にともない、さらに都会の人達の心の故郷として、また冬の黒姫高原・斑尾高原はウィンタースポーツエリアとして人気を集めております。

俳人・小林一茶の故郷「柏原」としても古くから文人墨客に親しまれ、多くの句と共に遺跡を残しております。

このように美しい自然の地に生まれた信州鎌は450年の伝統をもち、常に技術の練磨、品質の向上に努め、信州の特産として全国の皆様にご愛用いただいております。

江戸時代からの磨きぬかれた技術

「信州打刃物の由来」

今から450年前、川中島合戦の当時、この地を往来した刀匠が武器刀剣類の修理をし、郷人がこれによって鍛冶の技を習得したのが始まりと言われています。

「より使いやすい」

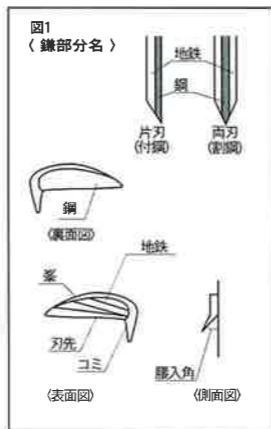
文献によると、文化文政(1804年～1829年)頃にかけて柏原村の久保専右衛門という野鍛冶が草刈鎌の製造に専念し、「芝付け」や「つり」(図1)を考案し、同じ頃古間村の荒井津右衛門がそれまでの両刃の鎌を片刃で薄刃のものに改良したと言われています。この両者の考案した鎌が、今日の信州鎌の原型となっているのです。

「発展」

幕末から明治にかけて鎌の販売を業とするものが出て、明治の後期には生産と販売を分業化した専門の間屋が確立しました。明治21年に国鉄信越線が開通したことにより、さらに販売面に拍車をかけ、全国各地に販売されるようになりました。

かくして鎌鍛冶の技術の優秀さと努力、そして間屋側の資本と開拓精神とが結びついて、信州鎌の銘柄で全国的に販路を拡げていったのです。

昭和57年3月「伝統的工芸品」に指定を受け、信濃町の重要な産業として益々発展が期待されています。



信州鎌の特色

《強じん》

地鉄に極軟鋼、刃鋼に純度の高い炭素鋼を用いており、伝統の技により鍛練し、均一な焼入、焼戻し処理がされていますので適度な硬さとねばりがあり、強じんです。

《永切れ》

刃中が広く、鋼が一様に接合され、入念な仕上げがなされていますので、体裁も良く、永切れします。又砥石で簡単に研げますので、いつまでも使用できます。

《使いよさ》

鎌は「芝付け」といって柄に差し込む部分を反らせ、峯を厚く、重みをつけ「しのぎ」を入れて草寄せを付してありますので、草の根元からきれいに刈れ、しかも刈り払った草が手元へ寄ってきます。



生産品目

- 鎌：信州型薄刃
- 信州型中厚
- 房州型
- 久留米型
- 三日月型
- 桑切
- 木刈鎌
- 造林用下刈鎌
- 九州型
- 米沢型
- 佐原型
- 茨城型
- 細丸型
- ウナギ型
- 古川型
- 鳥沢型
- 細型
- その他各種
- 包丁：片刃菜切包丁
- 両刃菜切包丁
- 東型菜切包丁
- 出刃包丁
- 刺身包丁
- そば切包丁
- めん切包丁
- その他各種
- その他：ナタ
- 押切鎌
- クワ類

朝霜に野鍛冶が散火走る哉

一茶

【信州鎌のできるまで】

鋼
地鉄
複合材

鋼づくり

地鉄づくり

じざり



地鉄に鋼を接合する作業

コミ曲げ



柄にさし込む部分を曲げる

腰出し



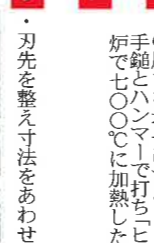
コミ曲げた部分を広げる

広げ



所定の形まで打ち広げる

押切り



刃先を整え寸法をあわせる

コミへい



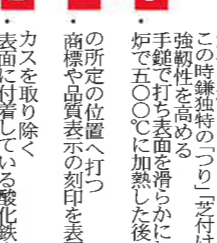
刃の厚さを均一にする

荒打ち



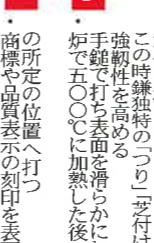
手鋸とハンマーで打ちこみ、刃で700℃に加熱した後、

荒みがき



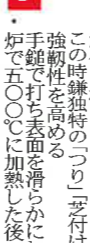
カスを取り除く、表面に付着している酸化鉄や

刻印打ち



の所定の位置へ打つ

小ならし



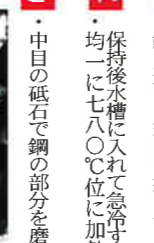
この時鎌独特の「つり」を付ける、強靱性を高める

中研ぎ



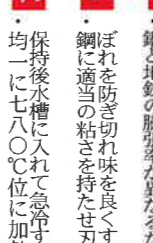
手鋸で打ち表面を滑らかにし、刃で500℃に加熱した後、

焼入れ



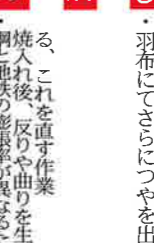
が付けられる

焼もどし



この時鎌独特の「つり」を付ける、強靱性を高める

ヨリ取り



手鋸で打ち表面を滑らかにし、刃で500℃に加熱した後、

刃研磨



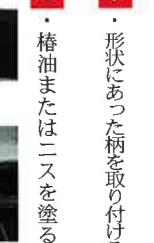
この時鎌独特の「つり」を付ける、強靱性を高める

つや出し



この時鎌独特の「つり」を付ける、強靱性を高める

サビ止め



この時鎌独特の「つり」を付ける、強靱性を高める

柄すげ



この時鎌独特の「つり」を付ける、強靱性を高める

信州打刃物